

鈴木頂行、高校生が光

江戸時代に水海道村(現・常総市)を拠点に人の生き方を説いた不二道の指導者、鈴木頂行に再び光を当てようと、県立竜ヶ崎一高(龍ヶ崎市の生徒が調査を始めた。二宮尊徳にも影響を与えた頂行の教えや人となり英語に訳し、広く発信する。「埋もれかけた歴史を発掘し、後世に伝えたい」と意気込んでいる。



鈴木頂行の史料を調べる竜ヶ崎一高の生徒と関係者。常総市水海道宝町

水海道の不二道指導者

隠れた英雄 英語で発信

頂行は1779年、現在の常総市水海道宝町の商家に生まれた。31歳の時、武蔵国鳩ヶ谷村(現・埼玉県川口市)の不二道(講)の行者、小谷三志に入門し、不二道の理論化に努めた。

不二道は、富士山を信仰の対象とする富士講が起源。江戸時代後期、三志によって実践道徳や家業精励の教えに変化した。

頂行は男女平等、相互扶助、商人道などを説き、商都として栄えた水海道の商人たちの大きな支えとなった。評判は下総国にとどまらず、朝廷にも届き、光格上皇に拝謁を許されたという。

同市で14日、頂行が残した史料が開示された。巻物や掛け軸など約80点。光格上皇から贈られたという御衣、菊の御紋入り茶器も並んだ。頂行から数えて8代目の鈴木雅彦さん(53)が同市の自宅に保管していた。

同校2年の3人は、小野威人教諭と古文書を調べ、年代や形状、破損度などを調査票に記入した。

中でも、頂行が不二道の集大成として書き残した「勸善録」の原典に注目が集まった。親孝行、弱者の救済、士農工商それぞれの勤め方など道徳の重要性を説いている。

勸善録は巻物。市職員の土井義行さん、元市職員の五木田大樹さんらの協力を得て計測した結果、長さは約44メートルあった。池上晃平君(16)は「約200年前に頂行が書いた原典にじかに触れた」と声を弾ませた。

3人は同校スパー

グローバルクラスで異文化体験や英語を重点的に学んでいる。調査は授業の一環で、江戸時代の農政家、二宮尊徳にも影響を与えたという頂行を英語で紹介する。佐藤佑磨君(17)は「水海道の隠れた英雄」、米川司君(17)は「広く伝えたい」と意気込む。

頂行をめぐるのは近年、常総市の印鑑業、海老原良夫さんが丹念に調べ、本を出版したが、頂行の活躍は地域でも広く知られていないのが実情。三志研究の草分けで、川口市から駆け付けた岡田博さん(86)は「貴重な歴史が地元で眠っている。ぜひ生かしてほしい」と期待した。

史料を開示した雅彦さんは「市外の高校生にも関心を持ってもらえてうれしい」と喜んだ。

(松田拓朗)